

付属資料1：日本

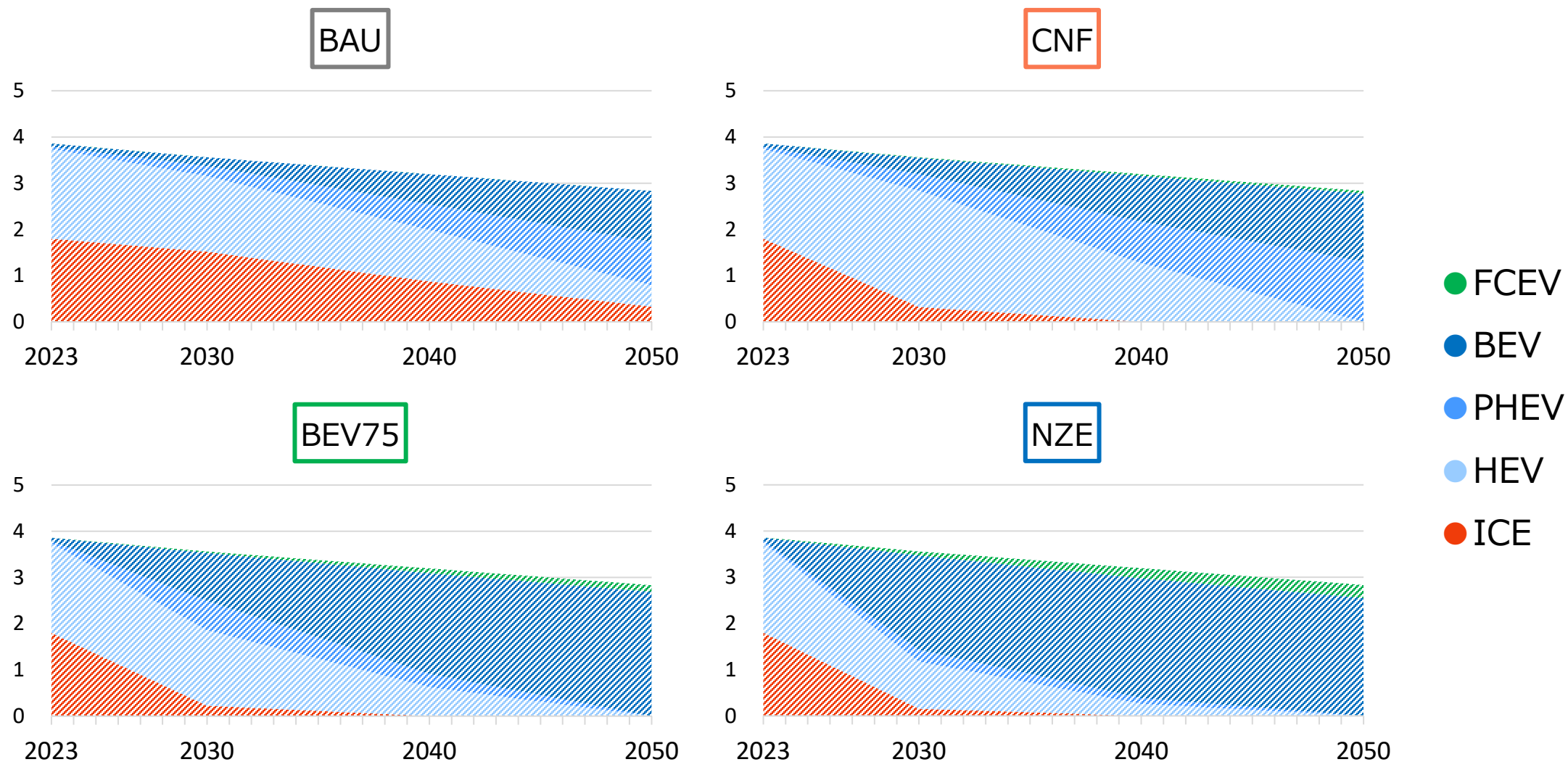
日本の特徴@2050年

シナリオ名	特徴		2020年比CO ₂ 排出量
全シナリオ共通	市場動向	・ 全車種で新車販売・保有台数ともに緩やかな減少	
	電源構成	・ 多様なクリーンエネルギーの増加 + CCSにより脱炭素化	
CNF	電動車の普及	・ 新車販売構成は、乗用車で46%がPHEVとなることを含め、電動化シェアが四輪で100%、二輪で80% ・ 保有構成はBEV・FCEVシェアが四輪で39%、二輪で73%	95%減
	燃料構成	・ CN燃料(合成燃料・バイオ燃料) + 電力 + 水素で96% ・ CN燃料は2023年時点の液体燃料の28%	
BEV75	電動車の普及	・ 新車販売構成は四輪でBEV・FCEV シェアが100%、二輪で88% ・ 保有構成はBEV・FCEV シェアが四輪で69%、二輪で81%	96%減
	燃料構成	・ CN燃料 + 電力 + 水素で97% ・ CN燃料は2023年時点の液体燃料の22%	
NZE	電動車の普及	・ 新車販売構成は全車種でBEV・FCEVシェアが100% ・ 保有構成はBEV・FCEVシェアが四輪で85%、二輪で100%	90%減
	燃料構成	・ バイオ燃料 + 電力 + 水素で73% (合成燃料は0想定) ・ バイオ燃料は2023年時点の液体燃料の2%	

CO₂排出量はいずれの想定シナリオもほぼCNに近い水準となる

日本の新車販売構成（乗用車）

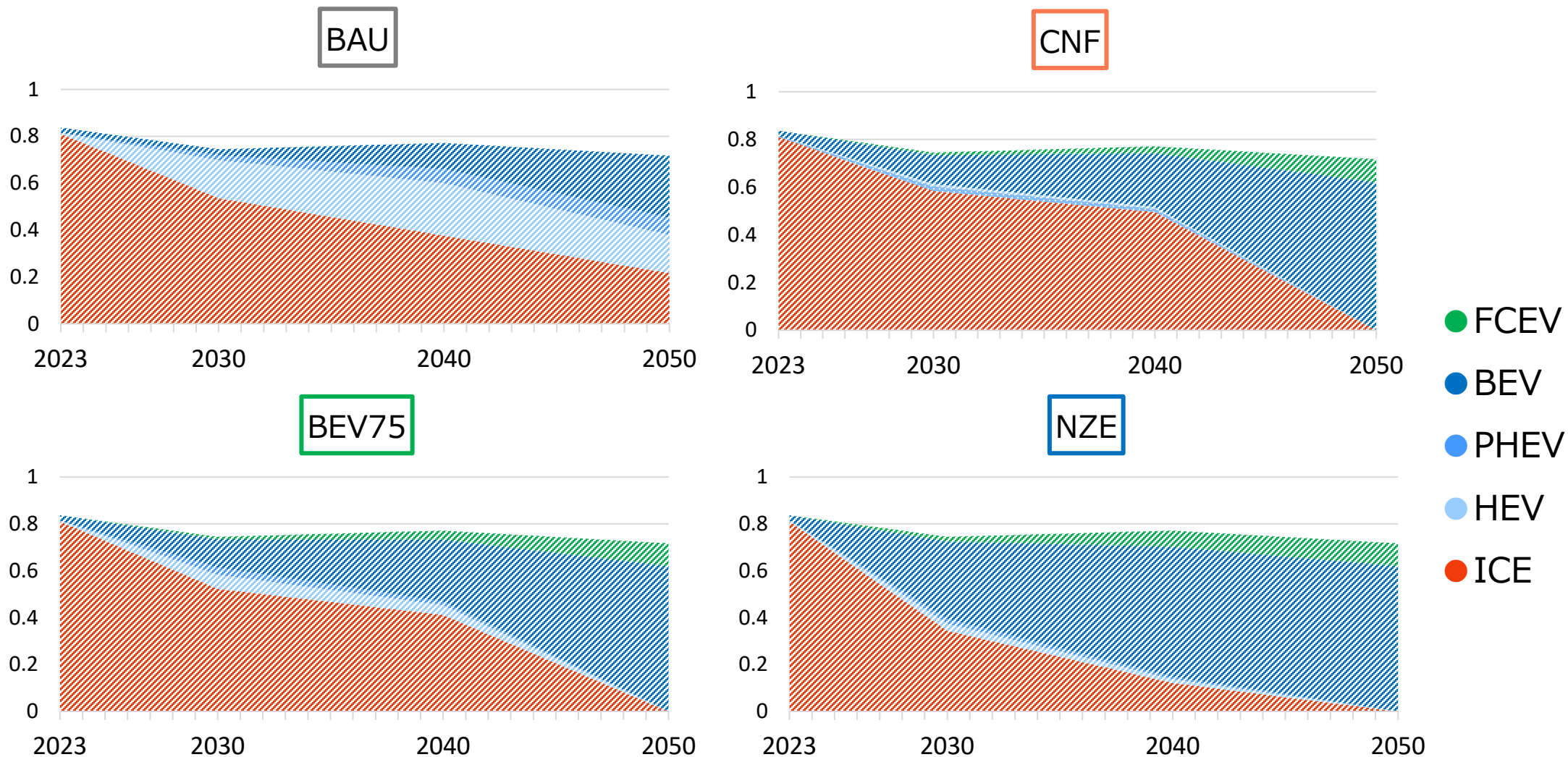
(単位：百万台)



* 実績値はEDMC推計、将来値は新車販売台数の合計はEDMC推計、パワートレインの構成は自工会のシナリオを基にEDMC推計

日本の新車販売構成（トラック・バス）

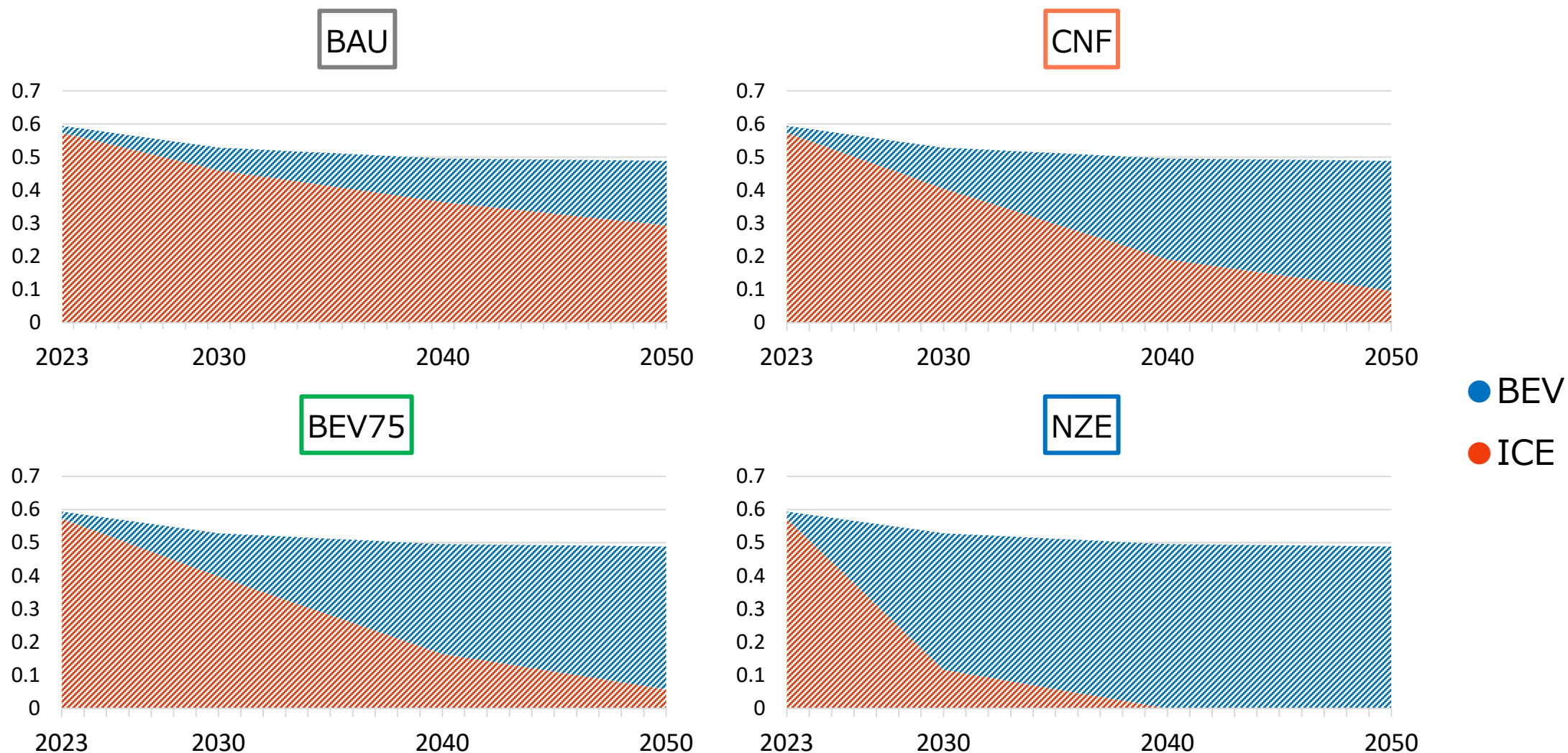
(単位：百万台)



* 実績値はEDMC推計、将来値は新車販売台数の合計はEDMC推計、パワートレインの構成は自工会のシナリオを基にEDMC推計

日本の新車販売構成（二輪車）

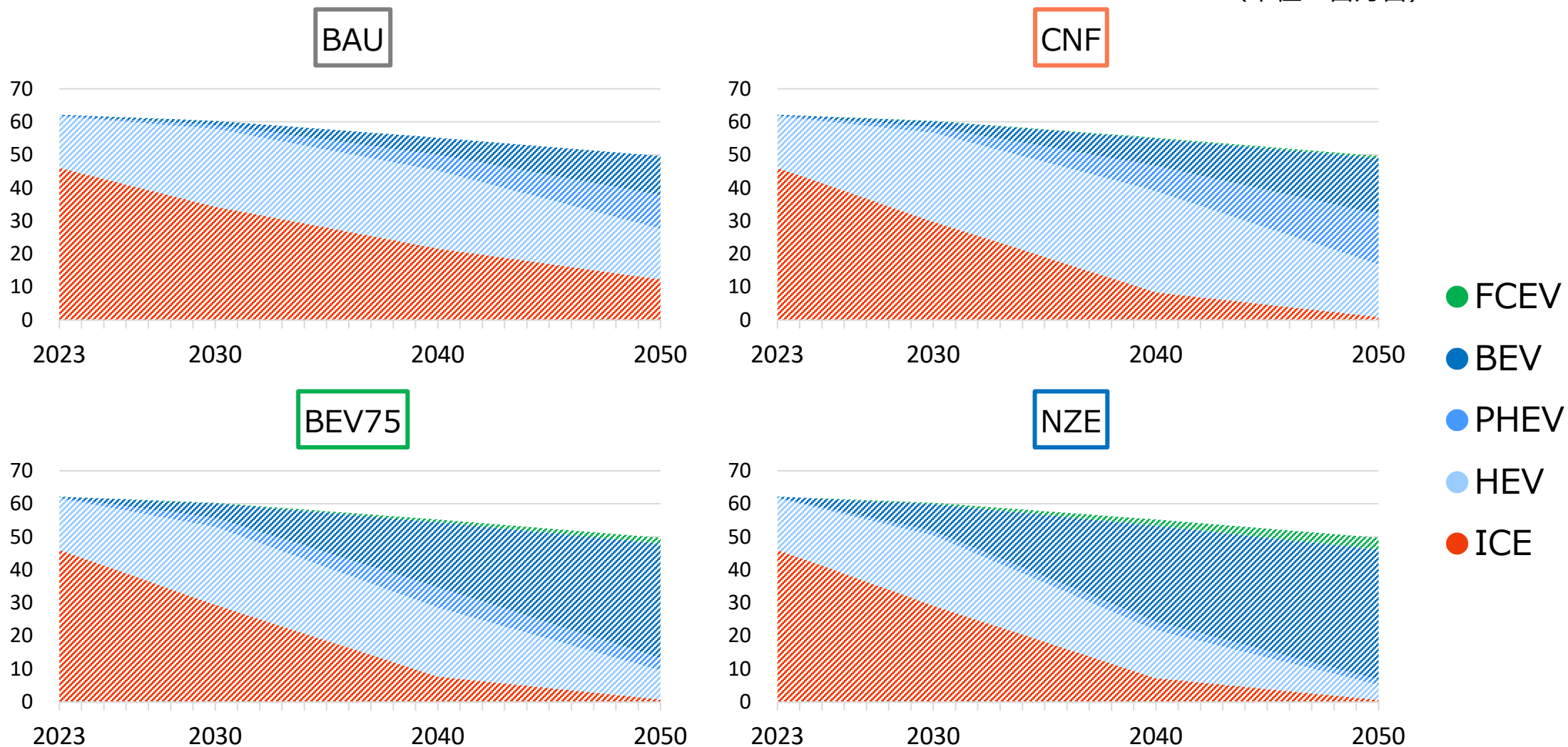
（単位：百万台）



* 実績値はEDMC推計、将来値は新車販売台数の合計はEDMC推計、パワートレインの構成は自工会のシナリオを基にEDMC推計

日本の保有構成（乗用車）

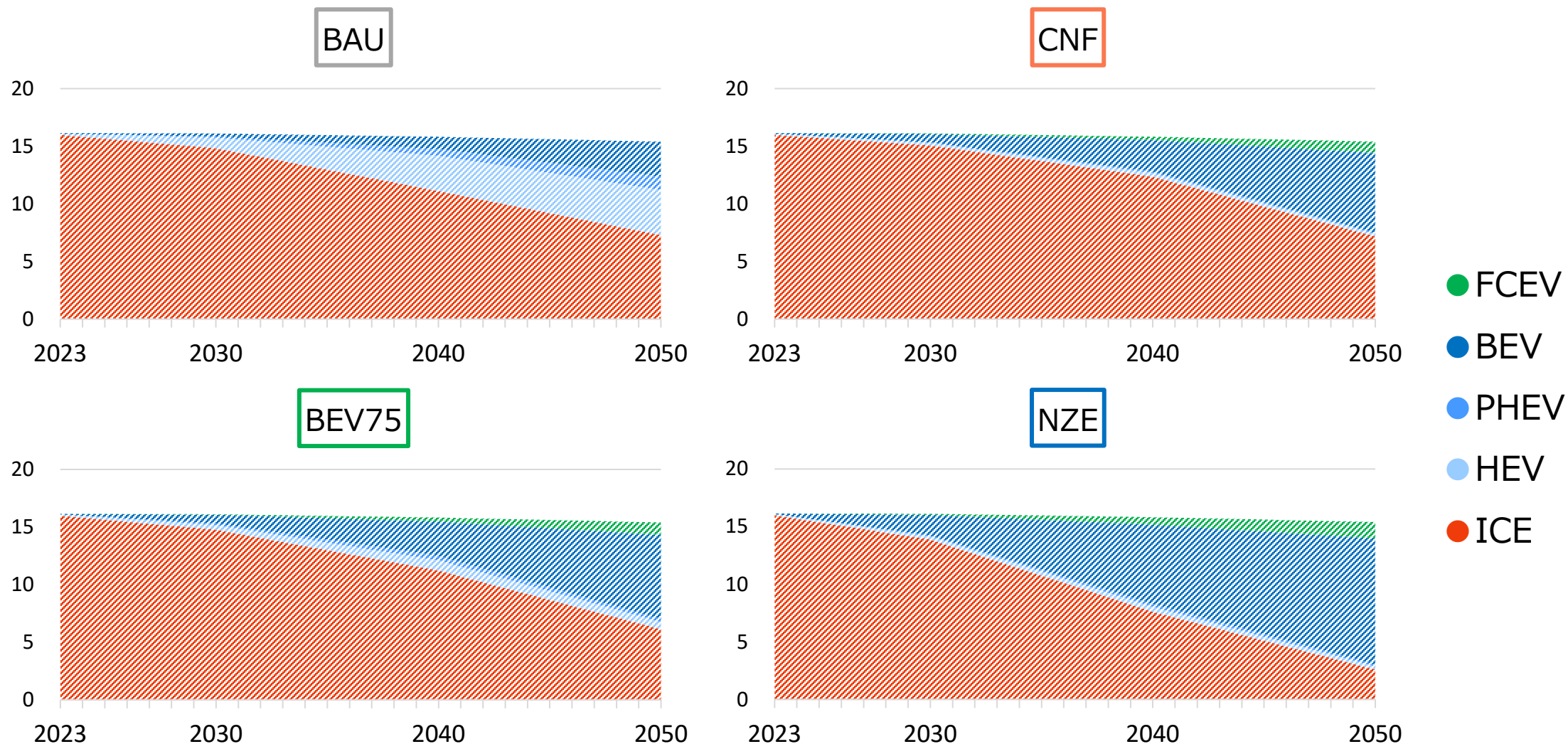
（単位：百万台）



* 実績値はEDMC/エネルギー・経済統計要覧2026年版を参照（前回分析(2022年版)はEDMC/エネルギー・経済統計要覧2022年版を参照）
 将来値は、保有台数の合計は[\[IEEJ Outlook 2026\]\(2025年発表\)](#)、パワートレインの構成は自工会のシナリオを基に推計

日本の保有構成（トラック・バス）

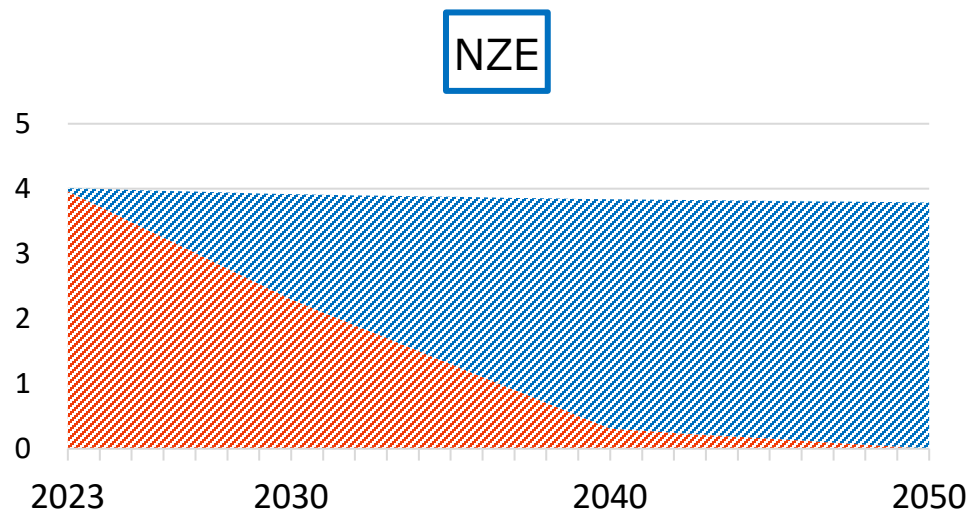
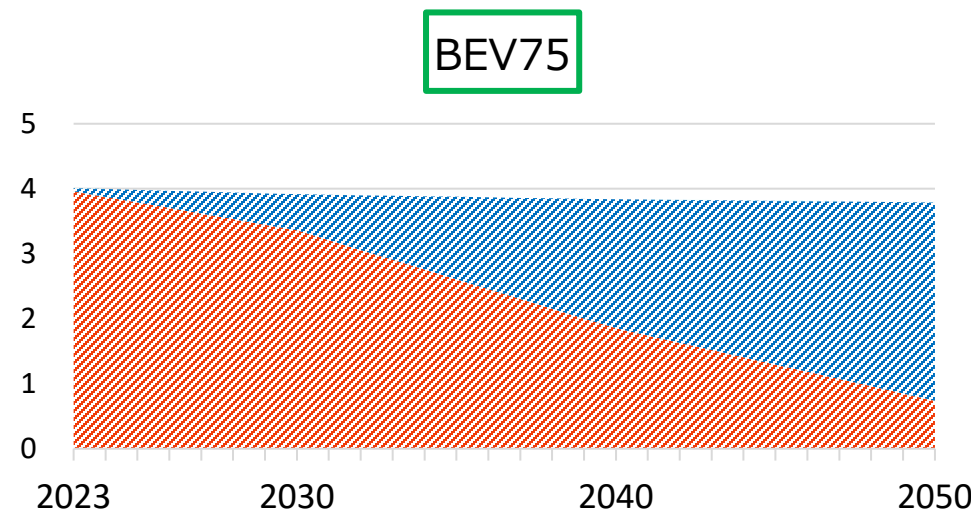
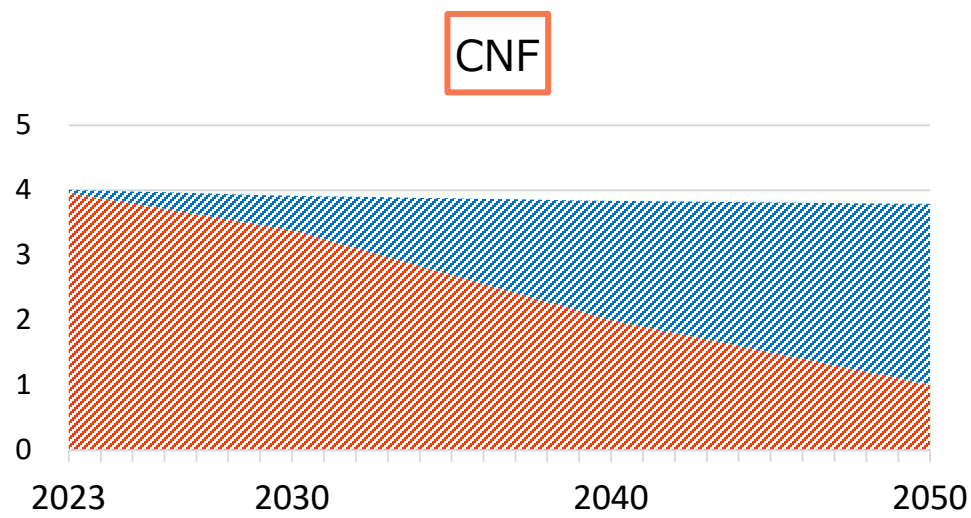
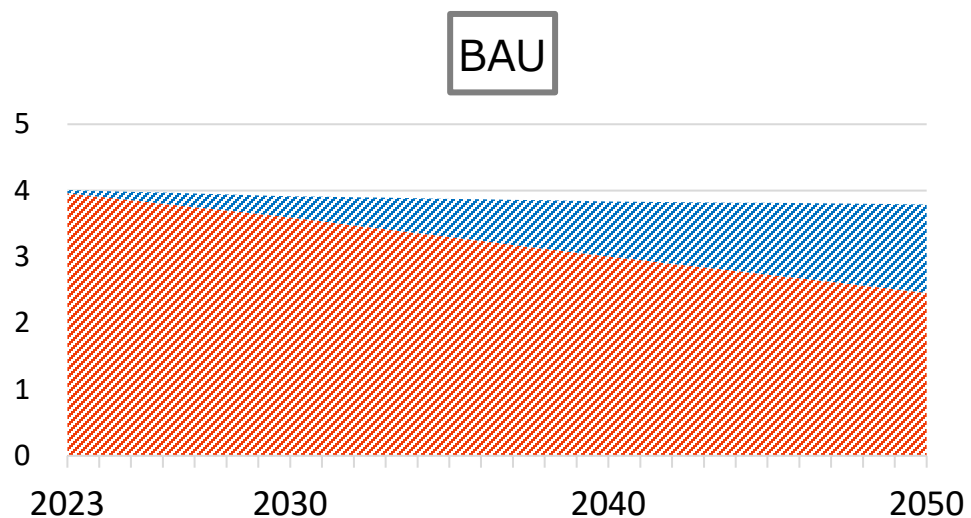
（単位：百万台）



* 実績値はEDMC/エネルギー・経済統計要覧2026年版を参照（前回分析(2022年版)はEDMC/エネルギー・経済統計要覧2022年版を参照）
将来値は、保有台数の合計は[\[IEEJ Outlook 2026\]\(2025年発表\)](#)、パワートレインの構成は自工会のシナリオを基に推計

日本の保有構成（二輪車）

（単位：百万台）

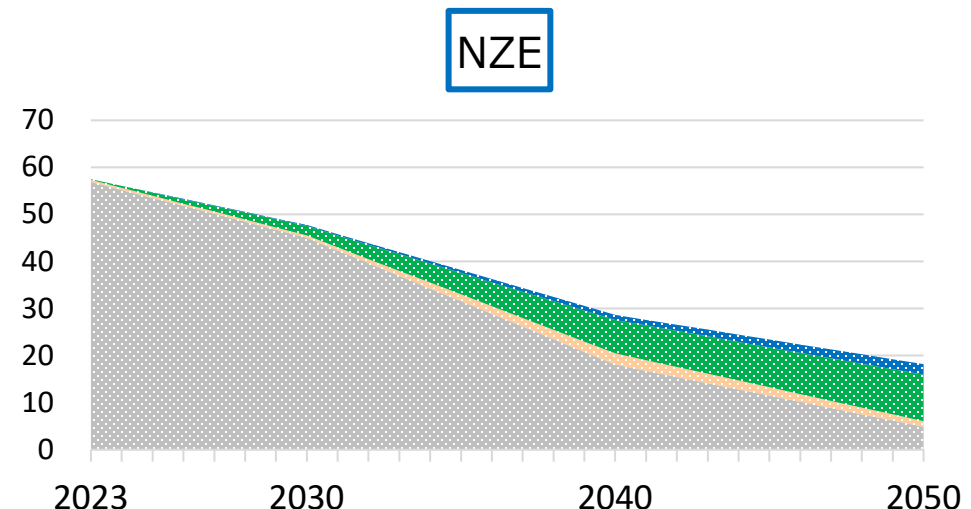
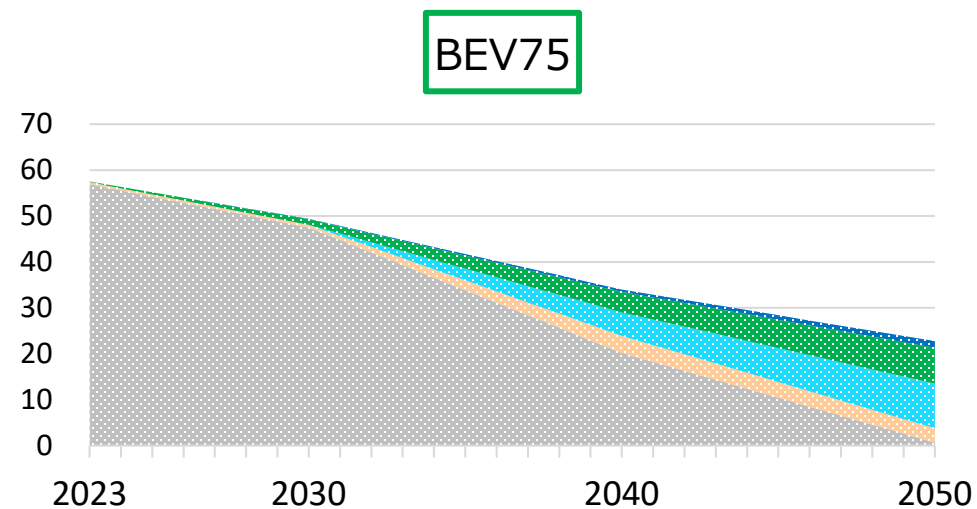
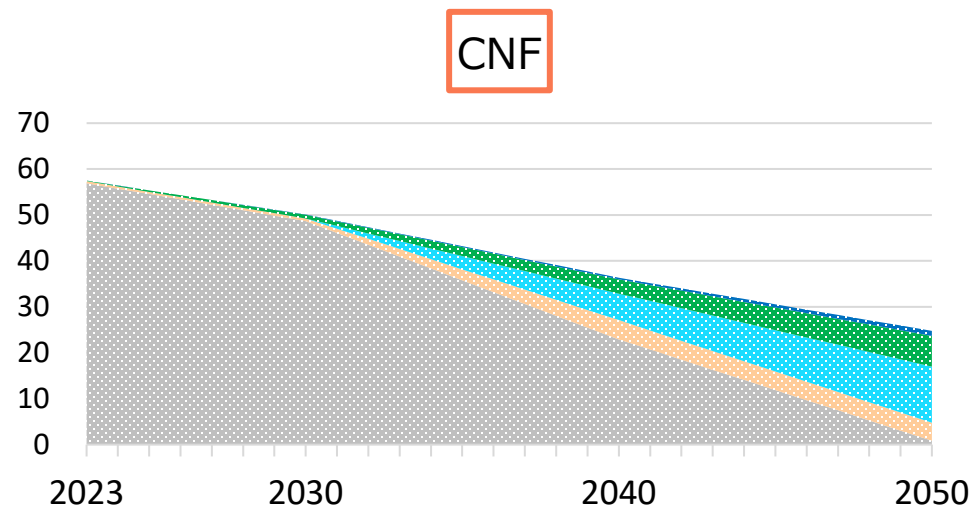
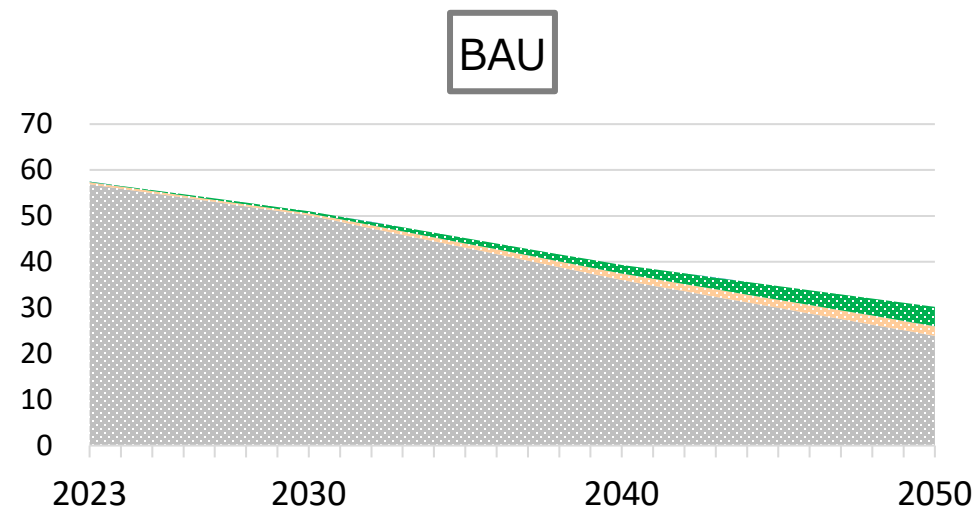


● BEV
● ICE

* 実績値は[The IRF World Road Statistics](#)および各国統計等よりEDMC推計、将来値は保有台数の合計はEDMC推計、パワートレインの構成は自工会のシナリオを基にEDMC推計

日本の燃料構成（合計）

（単位：Mtoe）

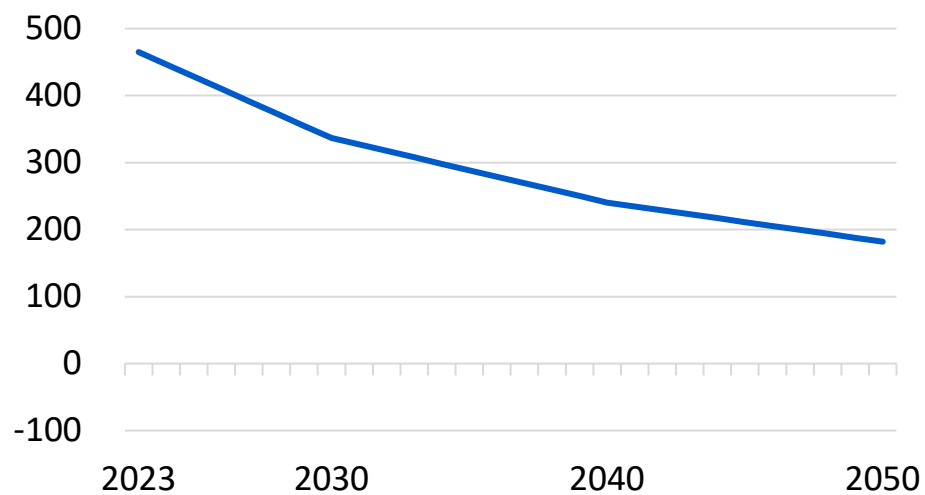
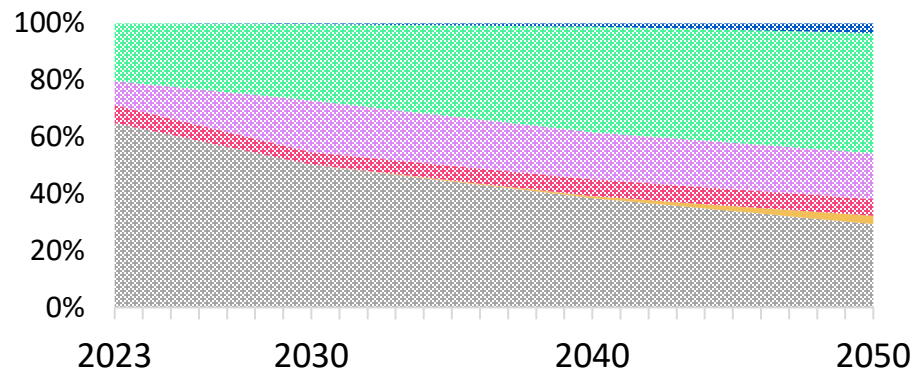


- 水素
- 電力
- 合成燃料
- バイオ燃料
- 石油

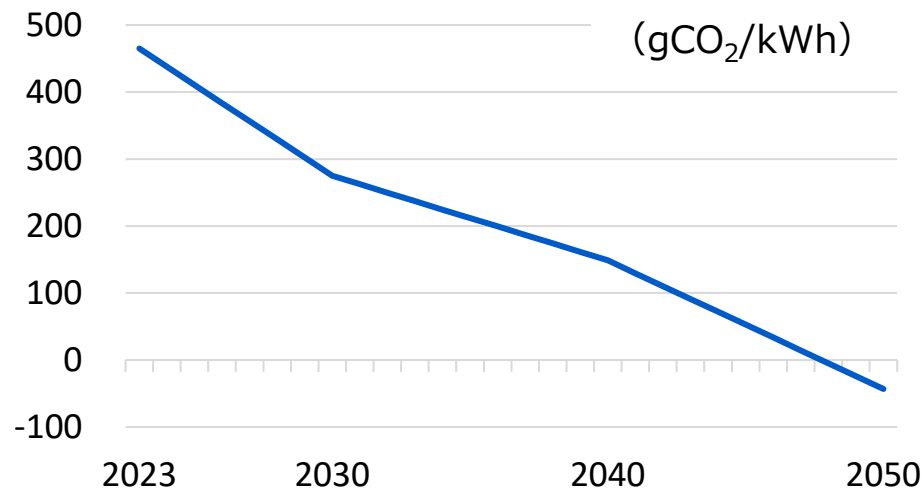
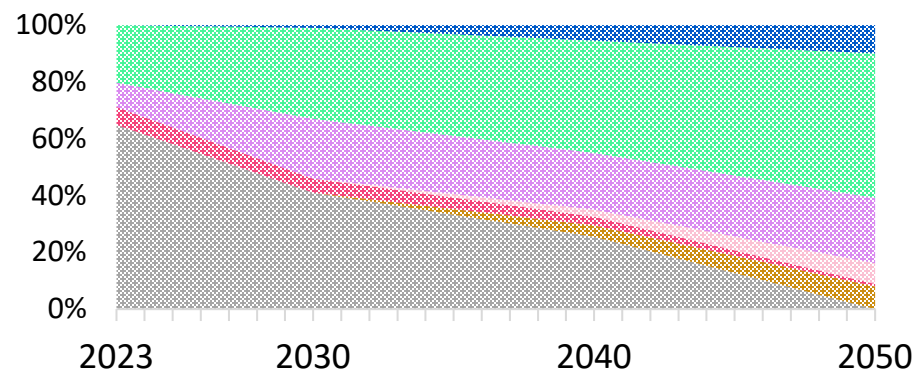
* 実績値はEDMC推計、将来値は自工会のシナリオを基にEDMC推計

日本の電源構成

BAU



BAU以外

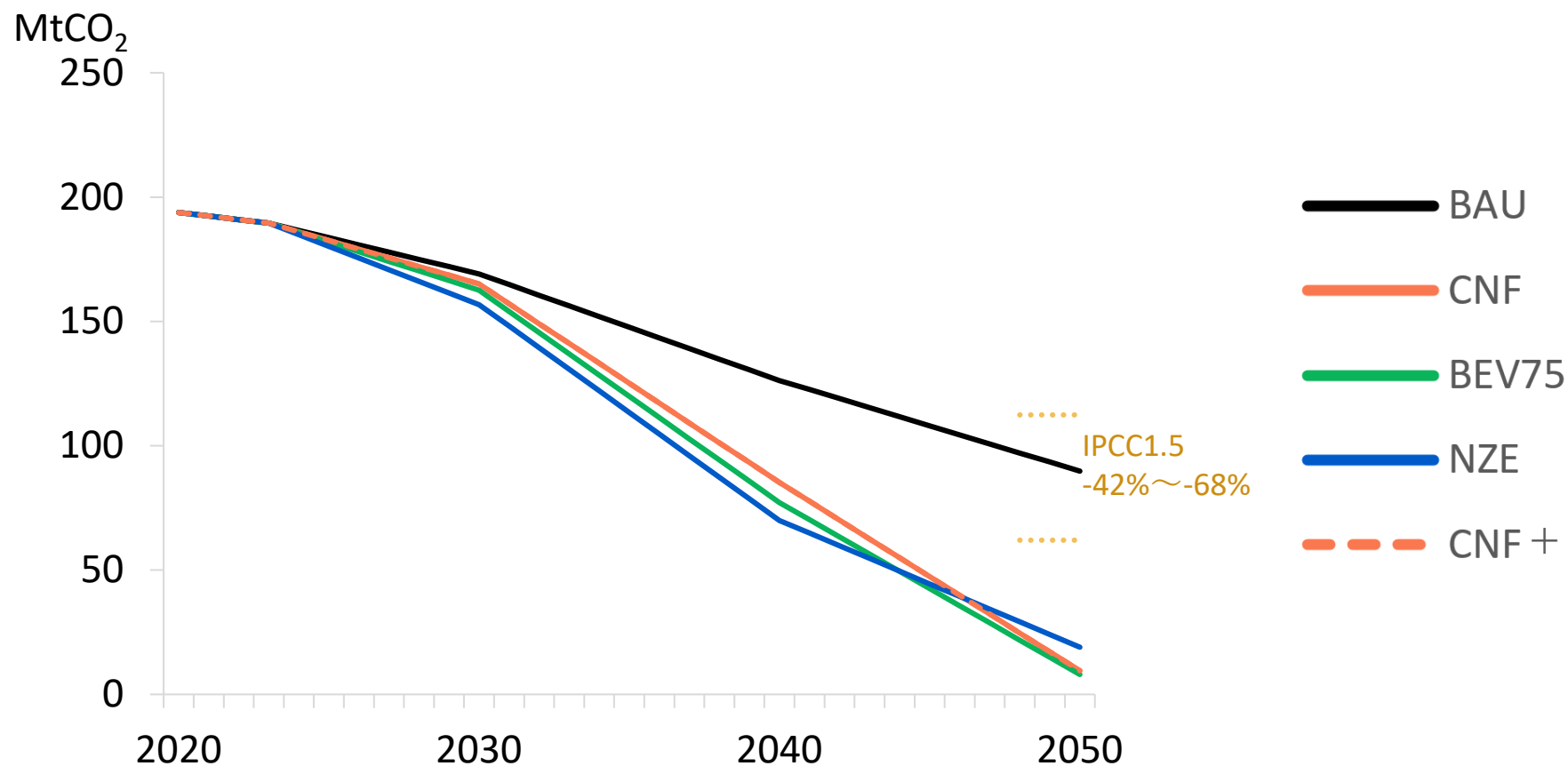


- 水素
- 再生エネルギー
- 原子力
- バイオマス+CCS^{*1}
- バイオマス
- 化石燃料+CCS^{*1}
- 化石燃料

* 実績値は[IEA World Energy Balances](#)、将来値は「[IEEJ Outlook 2026](#)」(2025年発表)を基に推計

*1 CCS(Carbon Capture and Storage)は、発電所や工場等から排出されるCO2を回収し、地中等へ貯留することでCO2排出量削減に活用する技術

日本のCO₂排出量



* 「IPCC1.5 -42%～-68%」は、IPCC 第3作業部会-第6次評価報告書 Chapter10で示された、世界の気温上昇を1.5℃以内または限られた超過に抑えるシナリオにおいて、世界の運輸部門のCO₂排出量が、2050年には2020年比で概ね42～68%減少するシナリオ(4分位範囲)のこと。この範囲内もしくは下回っている場合は、IPCC1.5℃目標に整合的と判断できる水準と言える

* CNFとCNF+の分析結果は同値であるため、グラフ上では両線が重なって表示されている

CO₂排出量はいずれの想定シナリオもほぼCNに近い水準となる